

「有難う御座ります」  
 「此處に不用の金子二十五兩ある、此の内二十兩は其の方の娘露が孝心に愛で、お上より御褒美に下さる」  
 「お有難う御座ります」  
 「此處に五兩残りたる、コリヤ船頭幸兵衛」  
 「イヤ、大將偉い、遣は御奉行様、埒が明いて誠に結構、皆悦ばなあかんで」  
 「フム、正直なる奴ぢや、これなる五兩の金子、其の方に褒美としてつかはすお請申せ」  
 「何を云ふてなはるねん、こんな金子を貰ほうと思ふてやしまへん……ナアモシ大將」  
 「コリヤ〱幸兵衛、受取りおけ、其の方の慾心の無き事は拙者よく存じ居る、コリヤ、正直の幸兵衛に上悟るぢやわ」

(終り)



# 林家染之助を偲ぶ

カッ ト 桂 米 之 助  
 桂 花 柳  
 笑 福 亭 福 柳 圓  
 野 崎 万 里

## 染之助君の靈に叫ぶ

人見君。君は死んだ。  
 残念だ、と言へば、君は笑ふだらう。何のこんな世の中に未練がと僕の口悔むのは、薄情な様だが君の死ではない。又性格が似てゐるからでもない。性格と言へば凡

花 柳

そ君と僕程似た者も尠なからう、無精で朝寝坊でむつゝりやで、お世辭の言へない損な性質だ。が唯ひとつ違つたところがある。それは君の才能だ、人一倍勝れた才能を持ちながら、それを現はさずに若死した。僕が残念だ